

公益社団法人 隊友船橋だより

令和5年 3月号 発行：千葉県隊友会 船橋支部事務局

047-434-2015

初代しらせが船橋港に係留されている会員の方はどれくらいいらっしゃるでしょうか？

初代しらせは海上自衛隊史上
2代目の砕氷艦で、2008年に退
役し、千葉市に拠点を置く気象
情報会社のウェザーニューズ



がスクラップになる筈だった本艦を写真-1 SHIRASE 全景
文部科学省より譲り受け、SHIRASE5002 との呼称に変更し船橋港に係
留しています。2013年からは創業者の石橋博良氏が設立した財団(一
般財団法人 WNI 気象文化創
造センター)に所有権を移譲
し、管理運営しています。

現在は、毎日見学できる状
況ではないものの、週に3日



ほど隣接するビール工場の協力を 写真-2 艦内見学ツアーの様子

得ながら艦内を元自衛官のガイド付きで見学できるツアーを行っており、好評を得ています。また、5月末には千葉地方協力本部によるマリンフェスタが開催され、本艦の前に護衛艦が着桟し、多くの来場者で賑わっているほか、映画やドラマ等の撮影協力や、大災害発生時の減災インフラとして京葉食品コンビナート職員の緊急避難場所や災害備蓄品の保管等を行っていて、見学やイベントの開催のみならず、地域貢献の場としても活用されています。

SHIRASE の艦内を自由に見学できるようにするには、初代南極観測船宗谷(お台場)や砕氷艦ふじ(名古屋)とは異なり安全上の課題も有りますが、コロナ禍も緩和に向かってきているため、徐々に見学できる機会を増やしていく考えです。

現在 SHIRASE5002 では元乗員を含む千葉・神奈川・茨城の隊



友会会員等 12 名

写真—3 SHIRASE で活躍する元自衛官

(運用・船務航海・機関・補給・飛行科の経験者)が整備や来場者の案内を行っています。いずれも自衛官を退任してから 2 度めの職場

でアルバイトとしての雇用ですが、現役時代の仕事を思い出し、来場される見学者の方々に対して楽しみながら南極の自然環境等を解説したり、可能な範囲で整備作業を行っています。



海上自衛隊で活躍していた艦船が海に浮かんだ状態で保存されている

るのは初代の砕氷艦ふじ(名古屋港)と 写真—4 船体整備作業の様子

2代目の初代しらせ(船橋港)だけです。護衛艦と比べると用途や目的、色彩、艤装こそ異なりますが、艦内での生活スタイルは海上自衛隊そのものです。

皆様も当時の職場の記憶を思い出しながらかつて海上自衛隊で活躍していた保存船に足を運ばれてみてはいかがでしょうか。なお、SHIRASE5002 ではイベント時におけるボランティアガイドや通常時に船体整備やガイドを担うアルバイトを若干名募集する時もあります。もし、協力頂けるようでしたら詳細は次のところまでメール頂けると助かります。また、SHIRASEの活動状況についてもホームページやSNSを通じて発信しています。

どうぞ SHIRASE の活動を見守り、SHIRASE を末永く残していくようにするために、時には関わって頂けると嬉しい限りです。何卒宜しくお願いします。

SHIRASE5002 乗員一同

ホームページ・活動状況について

ホームページ <https://shirase.info>

SNS twitter @SHIRASE5002

FB SHIRASE のお知らせ

ボランティアやアルバイトに関する問合せ先

shirase-goiken@shirase.info

(原稿写真提供 数藤)